

5. 予算および主要事業

水産試験場

事業名	平成26年度予算(当初)	
水産試験場運営費	22,703	千円
試験研究調査費	17,183	千円
(アユの冷水病等対策研究)	(3,360)	
(琵琶湖生態系修復総合対策研究)	(1,926)	
(アユ資源動向予測調査研究)	(5,055)	
(琵琶湖沿岸環境変動の影響調査研究)	(503)	
(セタシジミ資源の回復・向上試験事業)	(3,500)	
(増養殖技術研究)	(304)	
(漁況予報調査研究)	(1,824)	
(漁場環境調査研究)	(711)	
養鱒事業費	21,000	千円
調査指導費	2,302	千円
職員費	232,113	千円
計	295,301	千円

水産課計上分

事業名	平成26年度予算(当初)	
水産基盤整備事業費	5,204	千円
(漁場環境保全創造事業)	(2,204)	
(セタシジミ種苗放流事業)	(3,000)	
資源管理型漁業推進総合対策事業費	2,500	千円
(資源管推進調査業務)	(2,500)	
水産有害生物対策事業費	2,912	千円
(外来魚抑制管理技術高度化事業)	(976)	
(オオクチバス稚魚発生抑制事業)	(1,936)	
ホンモロコ資源緊急回復対策事業	800	千円
養殖漁業振興事業費	4,530	千円
(養殖衛生管理対策事業)	(2,130)	
(アユのエドワジエラ・イクタリル感染症まん延防止対策)	(1,200)	
(冷水病・エドワジエラ保菌検査の促進)	(1,200)	
水産業温暖化対策事業費	600	千円
(水温上昇が琵琶湖の水産生物に及ぼす影響の解明)	(600)	
内湖の在来魚生産機能の回復・向上試験事業	3,200	千円
(寄与率等調査)	(3,200)	
南湖のホンモロコにぎわい復活事業	2,900	千円
(ホンモロコ回復状況の確認)	(2,900)	
多様で豊かな海づくり推進事業	1,000	千円
(赤野井湾の在来魚回復状況の確認)	(1,000)	
計	23,646	千円

平成26年度主要事業一覧

事業名	事業概要
琵琶湖生態系修復総合対策研究	生物多様性に配慮しつつ、生態系の総合的修復技術を開発する。 ○ 生物多様性モニタリング ・ 沖合底魚・浮魚資源の評価、外来魚駆除効果の評価 ○ 沿岸帯の魚貝類生産機能修復再生研究 ・ ホンモロコ繁殖要因の解明研究 ・ スジエビ資源の漁況予測技術開発研究 ・ 淡水真珠生産機能回復研究 ・ セタシジミ親貝放流技術開発研究 ○ 水産資源造成技術開発研究 ・ 温水性魚類の効率的再生産助長技術開発
琵琶湖の沿岸環境変動の影響調査研究	漁場環境悪化の現状把握と改善策の検討や魚類相の変化がプランクトンの量や種類に与える影響、生活排水処理水の影響を把握する。 ○ 南湖湖底富栄養化等状況把握調査 ○ 漁網への藻類等付着メカニズム解明対策研究 ○ 魚類相の変化が沿岸環境に与える影響評価研究 ○ 生活排水処理水が河川漁場環境に及ぼす影響の把握
ホンモロコ資源緊急回復対策事業*	著しく減少したホンモロコ資源を回復させるために実施されている発眼卵大量放流用の天然親魚を生産し、その放流効果を調査する。
内湖の在来魚生産機能の回復・向上試験事業*	在来魚の再生産機能を取り戻すために実施される種苗放流や外来魚駆除の知見を利用した総合事業の効果調査を実施する。
南湖のホンモロコにぎわい復活事業*	南湖で水草刈取りによる湖流改善・魚の移動経路の回復を図り、種苗放流によるホンモロコ資源の増産を図る事業の効果を検証する。
赤野井湾の在来魚復活事業	赤野井湾で、外来魚の集中駆除により在来魚復活を目指す。 ○ ニゴロブナやホンモロコの再生産状況の把握
外来魚抑制管理技術高度化事業*	外来魚の効率的駆除技術や在来魚を活用した繁殖抑制効果調査 ○ 電気ショックの捕獲効率の向上及び他魚種への影響評価 ○ 外来魚駆除後の在来魚の回復過程の評価
オオクチバス稚魚発生抑制事業*	オオクチバスの成魚や親魚を効率的に捕獲し、稚魚の発生を効果的に抑制するため、それらの行動特性を明らかにする。 ○ 既存漁法の捕獲特性評価によるオオクチバスの行動把握
アユの冷水病等対策研究	アユの冷水病の予防および治療、冷水病菌の除菌技術を確立する。 ○ 冷水病抗病性付与および除菌技術普及研究 ○ ワクチンの実用化研究 ほか
アユ資源動向予測調査研究	平成24年のアユ産卵量激減の原因を解明と資源変動に対応できる迅速で制度の高い資源予測技術を開発する。 ○ 産卵量減少要因解明調査研究 ○ アユ資源の動向予測 ○ アユ資源の減耗と遺伝的変化の状況調査
漁況予報調査研究	琵琶湖のアユの資源状況の把握とその情報提供 ○ アユ産卵状況調査 ○ ヒウオ生息状況調査 ○ アユ魚群調査
漁場環境調査	琵琶湖の漁場環境を把握するための定点定期調査を実施する。
特産マス類資源の保全と活用に関する調査研究	在来マス類(イワナ・アマゴ)資源の増殖・種苗化および地域特産種としての高成長系ビワマスの養殖業への普及を行うための研究

*：本課予算